

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間 20060601～20071215

所在地 海老名市河原口 152
他

時代 近世～弥生時代中期



作成日:20071225

概要

本調査は、中日本高速道路株式会社による首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴い行われている、埋蔵文化財発掘調査です。

遺跡は相模川左岸の自然堤防の上、JR相模線と小田急小田原線の厚木駅北西約1kmのところにあります。

このあたりは市の名前にもなっている「海老名」氏が平安時代後半から室町時代に活躍していた地域です。

P23 下り線では、小石室が2基発見されました。1基は側壁を失い床面下底の石がかろうじて残存する状態でしたが、H1号石室は比較的良好な状態で検出されました。25～30cm 前後の川原石を組み上げて、内径が長軸で約1m、短軸は0.4mと大変小さい規模の石室を築いていました。

1号石室からは管玉8点と水晶製のそろばん玉3点、黄色いガラス小玉(ビーズ)が2点出土しています。

河原口坊中遺跡では7月14日に現地見学会を開催しました。その時の見学地点であるP25 上り線の地区でも小石室



▲P25U 1号墳石室

が発見されていましたが、遺物はありませんでした。



▲P23D H1石室全景



▲P23D H1石室出土玉類